

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	文化財保護事業への補助	会計	一般会計	事業No.	763	施策順No.	63-004
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-3-10-3		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	63 地域資産の保存継承			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	国・県・市指定文化財						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		国・県・市指定文化財数(件)	151	156	160	165	200	
	意図	指定文化財所有者と協働し、後世に伝えていくための保護措置を行う						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	保護事業を実施した指定文化財数(件)	2	1	5	2	2	1	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	22年度は、7月14日の集中豪雨により市史跡水城の水佐代獅子塚古墳の墳丘の一部が崩落したが、迅速に補助を行い、被害の拡大防止と市民の財産保全を図ることができた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	指定文化財の管理及び保護のために行う修繕等の補助金を交付する。指定文化財の保護事業のうち、①文化財保護法の規定による国の補助金の交付を受けた事業 ②長野県文化財保護条例および補助金交付規則の規定による県の補助金交付を受けた事業 ③飯田市文化財保護条例の規定による指定文化財の管理及び保護のために行う事業について、飯田市文化財保護事業補助金交付要綱に基づき補助する事業である。文化財の所有者が事業主体となって行う①指定文化財の保存のために行う修理及び災害復旧事業並びに環境整備事業 ②指定文化財の保護のために行う防災上の工事及び修理並びに災害復旧事業に対し、補助金を交付する。国・県教育委員会の指導を受けながら所有者・事業者と協働して事業を行う。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 市有形文化財、史跡等 修理工事 下黒田の舞台の修理工事、水城の水佐代獅子塚古墳の災害復旧工事 2 指定文化財の現況調査を実施し、保護処置の要否を判断 旧飯田藩馬場調練場の門(通称 脇坂門)	1 補助金額 2 現況調査した市指定文化財	1 1,343千円 2 1カ所
23年度実施計画	1 市有形文化財、史跡等 修理工事 通称脇坂門 2 指定文化財の現況調査を実施し、保護処置の要否を判断	1 補助金額 2 現況調査した市指定文化財	1 2,000千円 2 1カ所

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,420	1,343	2,000		
計(A)		1,420	1,343	2,000		
正規職員所要時間			500			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			1,788			
トータルコスト A+B			3,131			

4 事業に対する市民や議会の意見

文化財の所有者個人による保存継承の努力や、地元住民による保存事業等が進められている。しかし、指定文化財の管理については、所有者に負担を求めているが、その軽減を求めている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域資産が保存、継承される	施策の成果指標又はムトス指標	保存・継承されている地域資産の数(累計)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	地域資産を活用される状態に保つことができ、保存・継承につながった。また、学習・啓蒙活動や協働作業により、地域の資産を地域で伝承していく愛護の精神を涵養する一助となった。		
	後期に向けた課題	地域により、地域の資産として保存・継承していくことに温度差がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	適切な保存・継承が図られるよう、国・県教育委員会等の指導を受けながら、所有者・事業者と協働して事業を実施した。		
	後期に向けた課題	特になし。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	文化財の現況調査を行い、適切な時期に保存事業が行われより良好な状態で継承されるよう、所有者等との調整を行った。		
	後期に向けた課題	引き続き、国・県指定文化財に対する県の嵩上げ補助について、復活を強く働きかける。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者は市民および国民であり、文化財が良好な状態で後世に引き継がれることから、市の関与は適切である。文化財の管理・保護の負担を負う所有者・事業者にも負担を求めつつ、市は負担軽減を図っており、関与の程度は適切である。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①指定文化財の所有者およびそれを活用しようとする事業者で、積極的に応分の負担を負った。 ②文化財の現況を定期的に点検するとともに、専門家を交えての調査を実施した。		
	後期に向けた課題	所有者だけでなく、地域を含め活用・保存の気運が高まるよう、より情報発信や学習機会の提供に努める。		
全体を通じて	4年間の振り返り	地域資産が良好な状態で保存・継承されるとともに、学習・啓蒙活動や協働作業により地域を知り人材を育む活動が活発になり、地育力を高めることにつながった。		
	後期に向けた課題	定期的なパトロールを実施して、文化財の現況を把握するとともに、所有者等への啓蒙活動を心がける。また、物心両面で国・県の支援が得られるよう引き続き努めていく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------